

新春対談

沼津は
今よりもっと
輝ける



広報ぬまづでは、毎年一年の始まりに、市長と沼津にゆかりの深い著名人や有識者が語り合う「市長新春対談」をお届けしています。

今回の新春対談では、第27期燦々ぬまづ大使を務め、愛鷹地区で耕作活動にも取り組んでいる、スピリチュアリストの江原啓之さんをお迎えしました。

対談のテーマは「見直すこと」。江原さんが今まで培ってきた知見や経験から、今後の沼津がもっと元気なまちになっていくためのアイデアや、外からの目線だからこそ気が付く沼津の魅力や可能性について、市長と熱く語り合って頂きました。

中心市街地の整備やポストコロナに向けた取り組みが進む今だからこそ、市長と江原さんの話をヒントに、沼津の未来について改めて一緒に考えてみませんか。

沼津との意外な関係と

燦々ぬまづ大使就任

【市長】 明けましておめでとうございます。今年は、燦々ぬまづ大使の江原啓之さんにお越し頂きました。

【江原】 どうぞよろしく申し上げます。縁あって燦々ぬまづ大使を拝命しましたが、以前一緒に働いていた仲間が沼津出身で、実はかねてから親近感があったんですよ。

【市長】 そうだったんですね。昨年は、豪雨災害等の支援に対する寄附に加え、復興チャリティーイベントを開催して頂きありがとうございます。温かい思いの込められた言葉、行動が非常に心に染みました。

【江原】 お役に立てることがあればなんでもしますよ。それに、私も日頃から沼津に元気をもらっているんです。

私自身、愛鷹地区でお米を作っていますが、沼津で採れた食材は本当に美味しい。頂き物も含めて、旬の食材を毎日ふんだんに料理に使って、ブログで紹介させて頂いています。

【市長】 それは生産者の方々も嬉しいはず。きちんと食べて頂いて、情報発信までしてもらえるなんて。

【江原】 市民の皆さんは気が付きにくいかもしれませんが、沼津のものって人気があるんです。チャリティーイベントでも戸田たちばなのジャムや西浦みかんの蜂蜜を販売しましたが、本当はたくさんの方が買ってくれました。これはチャリティーだからではなく、シンプルに美味しいからなんですよ。

【市長】 生産者の方々はもちろん、私も沼津の産品には自信を持っています。が、実際にその様な声を頂けると本当に嬉しいです。